

漁況予報 い わ し

第202号

【2017年7～8月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概 況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、5月は20トンと前年(20トン)並で平年^{※1}(13トン)を上回りました。6月は125トン(速報値)で、前年(286トン)を下回りましたが平年(70トン)は上回りました。

まき網は、東京湾での漁獲はありませんでしたが、相模湾では餌イワシとして断続的にカタクチイワシに混じり漁獲がありました。

前号で期待した大羽イワシの来遊はありませんでしたが、当歳魚(2017年級群)の漁獲が始まりました。魚体は、5月は被鱗体長^{※2}(以下同)10-12cmの早生まれ群(前年12月生まれ)主体でしたが、6月に入り遅生まれ群(本年2-3月生まれ)の同9-10cmの魚も混じるようになってきました。

【カタクチイワシ】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、5月は210トンで、前年(314トン)及び平年(556トン)を下回りました。続く6月も270トン(速報値)で、前年(390トン)及び平年(440トン)を下回りました。

魚体は、10-11cmの小型成魚主体でした。

鴨居地区及び佐島地区のまき網は餌イワシとして断続的に漁獲しました。

【シラス】

4月に入っても全域で不安定な漁模様が続いた相模湾のシラス漁ですが、5月に入り徐々に漁模様が上向いたものの、東側ほど長続きせず西高東低の漁模様となりました。5月の漁獲量(標本船データより推定)は前年を下回ったものの平年並でした(前年比0.7倍、平年比1.1倍)。

6月に入ると、東側で平年並、江の島以西で平年を大きく上回る漁獲水準となりました。(前年比1.7倍、平年比1.8倍)

結局、春漁(3-6月)としては、前年を下回ったものの平年並でした(前年比0.7倍、平年比0.9倍)。

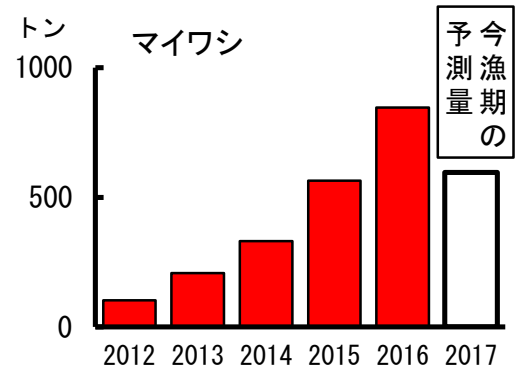
= 予 報 =

過去5年の7・8月漁期の漁獲量と
今漁期の予測量

【マイワシ】

今漁期は、2017年生まれの小羽マイワシ（10～14cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、春季のマシラスの漁獲状況から、前年をやや下回る約 596 トンと予測されます。

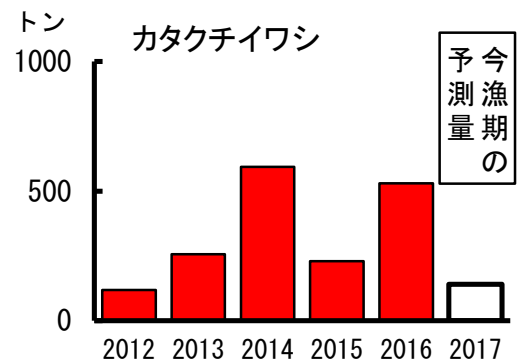


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、前半は小型成魚（9～10cm）、後半は未成魚（6～8cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、前年を大きく下回る約 140 トンと予測されます。



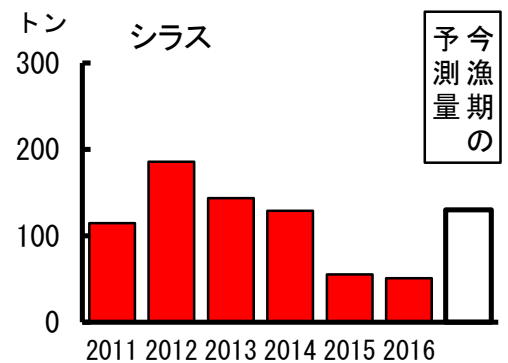
※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【シラス】

今漁期は、6月以降に生まれたカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、6月の相模湾周辺のカタクチイワシ卵分布状況から、前年を大きく上回る約 130 トンと予測されます。

なお、今後、黒潮が大きく蛇行することが予測されており、その北上流路の位置によっては予測量を大きく下回る可能性があり、黒潮の動向を注視する必要があります。



神奈川県水産技術センター企画資源部
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2313